

日本発ウィーン便り：石畳と馬車

オーストリアで犬の次に大事にされている動物は？

答えは「馬」です。

オーストリアのジョークで、こんなものがあります。

小さい子供に「大きくなったら、何になりたい？」

男の子「ウィーン少年合唱団に入りたい！そしてその後はリピッツァーになりたい！」

どこがジョークやねん？と思った方のためにちょっと解説すると、リピッツァーというのは馬の品種のことです。馬術界では憧れの馬なんです（馬術界のサラブレッドです）。ウィーンの王宮の一角にあるスペイン乗馬学校では、この馬の古典馬術の演技を見ることができます。「ウィーン少年合唱団」と「リピッツァー一種の馬」に共通することは、「皆に、このうえなく大事にされている」ことです。

ウィーンでは、観光用ではありませんが、旧市街はよく馬車を見かけます。



王宮の乗り場。遠くに見えるのが市庁舎です。大好きな風景の一つ。



王宮を通る馬車。



王宮のドームの下、石畳に響く馬の蹄の音が心地よいです。ウィーンならではの風景でしょうか。ちょっと不思議な気もしますが、馬車は車道を通ります。路面電車やバスに乗っていると、隣に突然馬が登場してびっくりすることもありますよ。もちろん信号では停止です。☺



ウィーンにある、オーストリアの国会議事堂前にて。パカパカ蹄の音とともに、馬車がやってきました。車が通らなければ、いつの時代か分からなくなるところです。こういう風景に何の違和感もなく、絵になるのもウィーンのすごいところですね。馬車は30分とか1時間とかの貸し切りで、御者さんがガイドしながらウィーンの観光地をまわってくれます。と言いながら、実は1人で乗るのも何なので、実際に乗ってみたことはまだないんですけどね～。そのうち、また誰かを案内する機会があれば、是非乗ってみたいと思います。きっと目の高さも変わって、ウィーンらしい、ウィーン観光ができるのではないかと思います。

ちなみに、御者さん達が寒い冬の間、客待ちの間に外で飲むよう、グラスにコーヒーとホイップクリームを入れたものが、日本でいうところの「ウィーンナーコーヒー」なんです。ただ、現地ウィーンでは「ウィーンナーコーヒー」と言っても通じないので、Einspänner (アインシュペナー) と言って注文してくださいね。(思っているよりクリーム多い目のコーヒーがグラスに入って登場します)



これは夏の様子ですが、もちろんここ、Schloss Schönbrunn (シェーンブルン宮殿) にも馬車が。
馬車で宮殿の庭園を散歩もロマンチックですね～。
是非、ウィーンでは、馬車に乗って「絵」になってみてください。

